

## 新入生の皆さんへ

### — 知の宝石箱 —

図書館長 宇城 由文



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大きな夢を抱き、やりたいことが山ほどあると思います。図書館は、そんな皆さんの人生に寄り添って、学生生活のサポートをします。本を読むということは楽しい人生をつくることです。夢を実現するには、自分の中にその土台をつくらねばなりません。野菜や果物を育てる時、もっとも大切な事は、良い土を作ることです。本を読むという行為は皆さんにとっての土(土台)をつくることなのです。本は皆さんに読まれることによって初めて皆さんの人生に語りかけることができるのです。

読書の方法には色々あると思いますが、最初は興味にまかせて色々な分野の本を読むのがよいでしょう。そのうちに自然と方向が定まってきます。ついでに自分の読書の履歴書を作ってみましょう。その履歴書を眺めると自分の姿が見えてきます。

本学の図書館は、中央図書館である本館と分館であるアジア関係図書館からなっています。蔵書数は図書が60万冊を超え、学術雑誌は4千種に及びます。所蔵する資料は英語、スペイン語など学内の専攻言語をはじめ、ロシア語、オランダ語、アラビア語など多くの言語に及び、これらの言語圏の文学、歴史、芸術、社会科学などの分野にわたる国際地域研究のための資料を蔵書構成の特徴として収集しています。また、これらの地域の文化的遺産である稀覯書も所蔵しており、いくつかのスペシャル・コレクションを形成して学内外の教育・研究の推進のために資料提供を行っています。第5閲覧室(8号館地階)には多読用図書を用意しています。皆さんにとっては、目的に応じて図書が検索できる主題別書誌データベースが便利です。外部(接続)データベースを利用して国内外の様々な情報を得ることもできます。その他、図書館では貴重書展示会、シンポジウム、フォーラム、出版、図書を通じての国際交流や対外協力も行っています。

図書館分館には本年度より京都国連寄託図書館を併設しています。国連の主要機関や下部機関・委員会の議事録や会議資料、それらを整理した公式記録、国連の刊行物などを保存しています。現在、資料整理をおこなっており、4月上旬に開館する予定です。学生の皆さんのご利用をお待ちしております。

図書館の利用方法ですが、本を読むといってもその目的は様々です。大学では、レポートや論文を書くために読んだり、授業の準備のために調べたりすることが多くなります。最近はネットを検索すれば何でも即座に知ることができます。ネット上に存在する無数の情報、それらを活用することは悪いことではありません。ただし、情報内容の吟味と確認が必要です。玉石混交の中から有用な情報を得るにはそれなりの知識と経験が必要です。本には出来上がるまでの物語と、世に出てからの歴史があります。本を手にとって調べるのは確かに手間がかかるものです。けれども、その手間が大切なのです。1つの事柄を調べるために関連する様々な図書を1頁ずつ繰って読んでいく、その過程で本は私たちに新しい知と未知の世界を提供してくれます。ネット上でこのような体験はまず不可能です。手間をかける中で、私たちは情報の内容を判断し、取捨選択する力を培います。このような過程の中から「新たな発見」や「ひらめき」を得ることもあります。これが大学での「学び」です。まずは本学のホームページから図書館を覗いてみてください。そして、新入生歓迎ライブラリー・ツアーに参加するなど、早いうちに図書館を訪れて、利用の仕方を身につけてください。図書館は知の宝石箱です。そして皆さんに活用してもらって初めて宝としての意味を持ちます。毎日午前9時から午後9時10分まで(土曜は午後5時まで、祭日・休日は時間が異なります)、図書館は皆さんを待っています。

うしろ よしふみ(教授・日本文学)